

男子決勝リーグ戦評①

令和8年7月29日	A②	11:35	大阪市立阪南中学校	21	12	13	16		62
はびきのコロセアム			近畿大学附属中学校	16	20	21	14		71

阪南4 5 6 7 8 近大附属4 5 7 8 10でゲームスタート。1Q 阪南5のレイアップで先制。対する近大附属は8のオフENSEスリバウンドからのゴール下で返す。阪南は5のドライブ、6のインサイドで得点を重ねていく。近大附属もペイントを積極的に攻めていき、流れを渡さない。1Q終盤粘り強いディフェンスから阪南が得点し、1歩抜け出て21-16阪南リードで1Q終了。2Q 近大附属は開始早々トラップディフェンスを仕掛け、流れをつかもうとする。対する阪南も6を起点に対抗する。近大附属4の3Pが決まり23-20になったところで阪南TO (5:31)。TO後も近大附属はディフェンスのプレッシャーを緩めず、連続得点し近大附属が逆転したところで阪南が2回目のTO 25-26 (3:59)。勢いに乗る近大附属は8がリバウンドからのシュートを決める。しかし、阪南も4がミドルと速攻で返す。29-29の同点で近大附属TO (2:53)。その後はお互いに得点を重ねる。最後にディフェンスから8の速攻につなげた近大附属がリードし、33-36で第2Qを終えた。3Q 近大附属がセットプレーで先制。阪南は6のミドルで返す。阪南7の連続7得点に対し、近大附属も粘り強いリバウンドから得点につなげ喰らいつく。近大附属4がディフェンスリバウンドや阪南のミスを得点につなげ阪南TO 44対50 (2:39)。TO後、近大附属が堅いディフェンスから早い展開に持ち込み、リードを広げ 46対57で3Q終了。4Q 近大附属はセットプレーで先制。ディフェンスのプレッシャーを強め、リードを広げにかかる。対する阪南は追いあげたいものの、シュートが決まらず苦しい展開が続く。46-64となったところで阪南TO (4:43)。阪南は6のオフENSEスリバウンドからのゴール下やアーリーオフENSEから連続得点をあげるも、近大附属はTOで流れを切りにかかる。阪南は6が3Pを連続で決めるも、近大附属も8が合わせからゴール下を決めて譲らない。62対71で試合終了。激しいディフェンスから流れをつかんだ近大附属が決勝リーグ1勝目を手にした。

記入者：奥田・前田

令和8年7月29日	B②	11:35	大阪市立三国	6	6	18	11		41
はびきのコロセアム			守口市立第一中学校	25	15	21	13		74

三国4,5,6,7,8 守ロー4,5,7,8,10のメンバーでスタート。
試合開始から、速い展開のバスケットで守ローが得点を重ねる。対して三国は、6,8を中心にオフENSEスを展開するが、なかなかシュートが決まらず残り5分7秒でタイムアウト。その後も守ローはオールコートでプレッシャーをかけ続け、10のゴール下、フリースローで得点をしていく。1Qは6-25で守ローがリードで終了。
2Qは三国7のオフENSEスリバウンドからのゴール下でスタートするが、守ローの堅いディフェンスから7の速攻などでリードを広げていく。8-33となり三国が前半2つ目のタイムアウト。守ローはさらに13のスリーポイントなどで得点。三国も4のジャンプショットで応戦するが流れを止められず、12-40 守ローがリードで前半終了。
後半のメンバーは、三国5,6,8,9,15 守ロー4,5,8,10,11
三国6のゴール下で後半スタートするも、守ロー8のバスケットカウント、10のドライブで得点を広げていく。さらに守ロー4の3P、スティールから速攻で差を広げる。
反撃したい三国も9の連続得点、8のジャンプショット、5のドライブで得点を重ねるが、30-61で3Q終了。
4Qは三国が差を縮めていくが、守ローも粘り強いディフェンスを継続し、速攻で得点していく。三国も激しいディフェンスから8秒オーバータイムをとるが守ローが最後まで落ち着いたゲーム運びをし、41-74で守ローが勝利した。

記入者：牧・高田

男子決勝リーグ戦評②

令和8年7月30日	A②	11:35	近畿大学附属中学校	28	21	22	13		84
金岡公園体育館			大阪市立三国中学校	15	14	11	16		56

1Q 近大附属4,5,7,8,19 三国5,6,7,8,9 白ボールからスタート。ジャンプボールからのセットプレイで④がフィニッシュ。立て続けに攻撃を仕掛け、5のジャンプシュート、8のファストブレイクで得点を積み重ねる。三国も8のスリーポイントや5のジャンプシュートで応戦する。4分が経過して16-7となったところで三国がタイムアウト。その後、三国は積極的なディフェンスで相手のターンオーバーを誘い、果敢なオフェンスを繰返して、28-15で1Q終了、どちらの攻防もハイペースな 1Qとなった。

2Q 白ボールでスタート。攻撃の手を緩めない近大附属。ディフェンスの圧力も上げて連続得点。三国も流れを変えようと4,15が交代で出場。決死のリバウンド、ルーズボールで喰らいつく。それでも近大附属の勢いは止まらず、5分が経過したところで20点差がつき、すかさず三国がタイムアウト。ゲームコントロールを狙いながらオフェンスを展開していくが、49-29で2Q終了。

3Q 黒ボールでスタート。三国は熱い気持ちのあふれるプレーで懸命に戦い続ける。しかしそれを上回る近大附属のディフェンスプレッシャーに圧倒され連続得点を許す。たまたらず三国学校のタイムアウト。近入附属中のオフェンスの勢いを止めることに成功したが、ハードなディフェンスは、打開することができず、なかなかスコアができない状態だった。

最終Q 白ボールでスタート。必死の思いで三国はディフェンスを仕掛ける。近大附属は、少しペースを落としたハーフコートオフェンスで応える。三国は5,6,8を中心に得意を積み重ねるが、悔しくも84-56で敗退。両チーム夏の暑さなり熱い気持ちでぶつかり合った素晴らしい試合となった。

記入者：浜口・河野

令和8年7月30日	B②	11:35	大阪市立阪南中学校	20	13	14	20		67
金岡公園体育館			守口市立第一中学校	17	11	9	19		56

阪南4,5,6,7,8 守ロー4,5,7,8,10でスタート。先制点は、守ロー7のドライブで得点する。対する阪南は6のゴール下でのバスケットカウントを確実に決め得点する。阪南は6のゴール下、3Pを中心に得点を重ねる。守ローは7のペネトレイト、ジャンパーを中心に得点を重ねる。20-17 阪南リードで1Q終了。

2Q、阪南は7の3P、6の力強いゴール下のシュートを決めきり、主導権を握ろうとする。応戦したい守ローはタイムアウトを取り、堅いディフェンスからトランジションオフェンスで巻き返しを狙う。思うように得が入らない時間が続くも、7,10がジャンパーで応戦し33-28、阪南リードで前半終了。

3Q、守ローはブレイクから7の得点を切り口に、速いオフェンスで点差を痛める。流れを渡したくない阪南は、6のインサイドプレー、5,7のアウトサイドシュートで得点し、主導権を譲らない。3Q終了直前、6の3Pで阪南が守ローを突き放し、47-37 阪南が10点のリードをし最終Qを迎える。

4Q、何とか巻き返しをはかりたい守ローは10のペネトレイトで得点。守ローのジャンパー、3Pでアウトサイドシュートを狙うも、決まらない時間が続く。対する阪南は、5のドライブ、6のインサイド、相手のミスから着々に得点を重ね57-41とリードを広げる。たまたらず守ローは3つ目のタイムアウトで流れを断ち切ろうとする。タイムアウト後、4の3P、8,10のジャンパーで果敢に攻めて巻き返しをはかる。しかし、阪南も冷静に試合を運び、終始主導権を譲らなかった阪南が67-56で勝利。これで阪南、守ローともに1勝1敗となり、リーグ最終戦を迎える。

記入者：高田・川端

男子決勝リーグ戦評③

令和8年7月30日	A④	14:35	守口市立第一中学校	12	12	17	16		57
金岡公園体育館			近畿大学附属中学校	22	14	13	20		69

守ロ－4, 5, 7, 8, 10 近大 4, 5, 7, 8, 10でスタート。
近大5のフリースローで試合が動き出す。守ロ－4がドライブで点を取るが、残り2分13秒で守ロ－がタイムアウト。守ロ－7で返すも、近大の4番のドライブや速攻で得点を取り、1Q近大10点リードで終える。
2Q始め、守ロ－10のドライブからのバスケットカウントで先制。しかし近大は16の3ポイントで返して流れを渡さない。守ロ－4の3ポイントシュートが決まり、残り6分28秒18-25で近大がタイムアウト。お互い点を取り合い、24-36で近大がリードで前半が終わる。
後半出だし、守ロ－7がジャンプシュートを決めてスタート、近大7が3ポイントシュートを決め返す。お互いに点を取り、残り3分15秒で守ロ－がタイムアウト。32-45、守ロ－がプレスをかけて点差をつめて41-49で3Q終了。
守ロ－9の3ポイントシュートなどで点差をつめるが、近大の速攻とエンドプレー、サイドプレーからの得点をかさね、残り1分2秒で守ロ－が最後のタイムアウト。守ロ－サイドのプレーは決まらず、近大がボールキープしてタイムアップ。近大3勝で近畿大会 大阪1位で突破。

記入者：秋山・岡

令和8年7月30日	B④	14:35	大阪市立三国中学校	15	5	13	17		50
金岡公園体育館			大阪市立阪南中学校	17	17	14	18		66

三国 5, 6, 8, 9, 15、阪南 4, 5, 6, 7, 14でスタート。
開始早々、阪南4がフリースローを沈め先制点を挙げる。しかし、その後三国が流れを引き寄せ連続シュートを成功させ主導権を握る。阪南は三国の勢いを止められず開始5分でタイムアウトを請求。阪南6のインサイドを起点に応戦し、両チームとも序盤から集中力の高い攻防を見せる立ち上がりとなった。17-15で阪南がリードし1Q終了。
第2ピリオドも両チームの守備が光る展開となった。阪南は6番がゴール下で体を張ったプレーを続け、そのまま速攻につなげて得点を重ねる。守備から攻撃への切り替えが機能し始めると、阪南が徐々にペースを掌握。三国もオールコートディフェンスでプレッシャーをかけるが、阪南が落ち着いた試合運びで阪南が34-20で前半を終了。
後半に入っても阪南は攻撃の手を緩めず、固い守りからテンポの良いオフェンスで得点を重ねる。三国は粘り強く攻めるものの、ペイントエリアを攻略できない苦しい時間帯が続いたが、3Pを決め追い上げを図る。阪南6が攻守に渡りゴール下で奮闘し、三国の追撃を許さず、阪南がリードを保ったまま48-33で3Q終了。
第4ピリオドは、阪南が立ち上がりから速攻を連続で成功させ、一気に得点を重ねる。攻守の切り替えの速さを生かしたプレーで試合の流れを完全に引き寄せ、リードをさらに広げた。反撃のきっかけをつかみたい三国だったが、阪南の勢いを止めることができず、たまたまタイムアウトを請求。流れを変えようと立て直しを図るも、阪南が最後まで主導権を握り、66-50で阪南が近畿大会への切符をつかんだ。

記入者：浅井・河野

女子決勝リーグ戦評①

令和8年7月29日	A①	10:00	高石市立高南中学校	15	20	29	17		81
はびきのコロセアム			大阪薫英女学院中学校	12	14	9	14		49

高南4. 5. 6. 7. 11薫英4. 5. 6. 11. 19のメンバーでスタート
高南4のスティールからレイアップで先制、対する薫英は19のポストプレーからのシュートで応戦。高南6のジャンプシュートや4のフリースローで得点を重ねる。薫英も19のリバウンドがらのシュートで得点を増やし、両チーム一進一退の攻防が続き、高南15-12薫英で1Qを終える。
2Q薫英ボールからスタート、高南7のスリーポイントで差を広げるが、薫英5のスリーポイントで巻き返す。高南は粘り強いリバウンドから得点につなげ、高南24-17薫英になり、残り5:59で薫英タイムアウト、薫英はスティールからの速攻で反撃を試みる。薫英5のスリーポイントが決まり、点差をつめるが、高南の固いDFもあり、高南35-26薫英で前半を終える。
3Q開始早々高南は4と7の速攻で差を広げ、15点差がついた所で薫英タイムアウト、高南は手をゆるめることなく、5の速攻、フリースローで点差を広げる。対する薫英は4のスリーポイントとターンシュートで反撃する。残り3:25 で21点差となり薫英タイムアウト。薫英は6の速攻で連続得点をした所で、高南タイムアウト、高南は14のスリーポイント、7の速攻で薫英を突き放し高南64-35薫英で3Qを終える。
4Q薫英ボールからスタート、高南5のスティールから得点、6のドライブを中心に 得点を重ねる薫英は5のレイアップや19のゴール下のシュートで応戦する。残り2:45高南タイムアウト、高南12のリバウンドからのシュートが決まり大きく差を広げ、最終高南81-49薫英で高南の勝利、両チーム残り2試合頑張ってもらいたい。

記入者：後藤・加藤

令和8年7月29日	B①	10:00	大阪市立三国中学校	19	6	4	9		38
はびきのコロセアム			樟蔭中学校	14	19	35	30		98

三国6,7,8,13,15 樟蔭4,5,6,7,8で開始。
1Q 樟蔭は積極的にプレスディフェンスを仕掛け、早い展開に持ち込もうとする。一方の三国はパッシングで上手く交わし、8,15を中心に効率良く点を重ねる。樟蔭は9,10,11,12,13とメンバーを入れ替えくらいつく。19-14、三国リードで1Q終了。
2Q 樟蔭が相手のミスを誘ってボールを奪い、4が攻撃の起点となってじわじわ追い上げる。1点差まで詰め寄られた三国はタイムアウトを取って立て直しを図る。一進一退の攻防が続くが、樟蔭は4,5が攻守の軸となり、逆転に成功。25-33、樟蔭リードで前半終了。
3Q 出だしから樟蔭がスティールからの速攻で得点を量産し、開始5分で24得点を挙げる。対する三国はボール運びに苦戦し、攻めあぐねてしまう。29-68、樟蔭が点差を広げ3Q終了。
4Q 追い上げたい三国は8が起点となってボールを回し、果敢にリングヘアタックする。一方の樟蔭は、メンバーを入れ替えながらディフェンスの圧を緩めない。38-98、樟蔭が決勝リーグ1勝目をあげた。

記入者：奥田・牧

女子決勝リーグ戦評②

令和8年7月30日	A①	10:00	高石市立高南中学校	33	33	42	25		133
金岡公園体育館			大阪市立三国中学校	10	2	4	4		20

高南4 5 6 7 11、三国6 7 13 15でスタート。先制点は三国。オールコートDFをかいぐるパスで2点をもぎ取る。高南は序盤から多くのOFリバウンドで攻撃回数を増やす。三国もパスでつなぎ、ボール運びに徹するがオールコートDFの圧力が高く、1Q前半で5-14と突き放される。ただし、高南もファールが重なり三国はボーナスフリースローで得点のチャンスを作った。1Q三国のパスシングであと1人手がつかわず終始高南のペースでゲームは続き、33-10で1Q終了。

第2Q、高南は1Q同様、激しいDFで相手のミスを誘い、速攻中心に得点を重ねる。三国は、パスシングを中心にボールを運び、8のレイアップで得点したところで、高南は、前半1回目のタイムアウト。その後も、高南は激しいオールコートDFを続け、着実に得点を重ね、66-12で前半終了。後半は高南8 10 12 13 17、三国6 7 8 13 15でスタート。序盤から高南の猛攻は止まらず前半だけで30点突き放す。三国⑧の負傷などもあり三国はボールを前に進めることができないことが多くなってしまった。交代で入った高南9の3Pに三国の7の3Pで返すなど反撃の場面も作ったが、高南の控えメンバーのオールコートDFにつかまり3Qだけで4-42という結果になり107-16で3Q終了。

第4Q、三国の15のゴール下シュートで得点。対する高南も、18のレイアップ、16のゴール下などで得点を重ねる。三国も最後まであきらめず、ボール運び、DFをやり続けたが、1試合を通してメンバーが変わっても激しいDFをし続けた高南が終始、試合の主導権をにぎり、133-20で勝利した。

記入者：山中・斎藤

令和8年7月30日	B①	10:00	大阪薫英女学院中学校	14	22	8	18		62
金岡公園体育館			樟蔭中学校	8	13	18	16		55

薫英4 5 6 11 18、樟蔭4 5 6 7 8 でスタート。序盤はお互い3Pを中心にシュートを狙うがなかなか決まらず、6:02 薫英4のリバウンドシュートが初得点。その後薫英は4 19のリバウンドシュート、ポストプレーを中心に加点。一方、樟蔭はオールコートディフェンスから、6のジャンプシュート、4の2本の3Pで応戦するも、14-8で1ピリオドを終える。

樟蔭4の3Pで先制するが、樟蔭4の3P、ゴール下で連続得点で反撃。6:31で薫英のタイムアウト。樟蔭6のバックカットから得点を重ね、残り1:57 1点差に詰める。さらに樟蔭6がシュートファウルをもらいフリースローで同点に迫っていく。負けじと薫英6もドライブからファウルをもらい応戦する。樟蔭は5のジャンプシュート、薫英は4の3Pで得点の取り合いとなるが、2Q終盤に薫英4 6 19が得点を積み重ね、前半を36-21で終える。

3Q、薫英4 5 6 9 17、樟蔭4 5 6 8 11でスタート。樟蔭8のポストプレーで後半先攻。薫英も19の1on1で加点。樟蔭が5の3Pを決め37-26となったところで薫英がタイムアウト。その後、樟蔭のディフェンスが激しくなり、速攻から5のシュート、6の1on1で5点差に。薫英は19 4のフリースロー、6の3Pが決まるも、樟蔭5 4が3Pをしずめる。薫英6のフリースロー、樟蔭5のジャンプシュートを決め、44-39で3Qを終える。

4Q、樟蔭6のドライブからファウルをもらいフリースロー、11の速攻で2点差まで詰める。対する薫英は4の3P、19のゴール下で突き放す。残り3:46、53-44で樟蔭タイムアウト。薫英5の速攻カウント1ショットで徐々に点差をひろげる。樟蔭4の3Pに応戦し、残り35秒 60-52で薫英タイムアウト。薫英9の速攻でフリースローをもらい、点差を離す。樟蔭7の3Pで詰めるが、タイムアップ。最終 62-55 樟蔭で、薫英が1勝をもぎとる。

記入者：武本・後藤

女子決勝リーグ戦評③

令和8年7月30日	A③	13:05	樟蔭中学校	16	10	7	13		46
金岡公園体育館			高石市立高南中学校	21	29	20	14		84

樟蔭 4.5.6.7.8.高南 4.5.6.7.11のメンバーで試合開始
開始早々 樟蔭は、6のドライブでファウルを誘い、フリースローを決める、その後も5のシュート 8のゴール下などで得点を重ねる、一方高南は11、4の1on1から得点を重ねる。
両者とも激しいディフェンスで流れをゆずらないが、1Q終盤、高南5のシュート、7のスリーポイントで連続得点をあげ16-21で第1Qを終える。
2Q、高南は1Q開始から激しいディフェンスを継続し、ディフェンスからのスティールや、リバウンドからの速攻など、攻守の切り換えの早さで、続々と得点を重ねる。このクォーターで、点差が広がり26-50を高南リードで前半を終える。
後半、樟蔭は45678、高南は4.5.6.7.11でスタート。3Qで巻き返しをはかりたい樟蔭は、8のリバウンドシュートで得点する。対する高南は11のドライブから得点する。
3Qでも高南はディフェンスのプレッシャーを緩めることなく、早いテンポのバスケットを展開し、樟蔭に流れを渡さない。33-70で3Qを終える。
4Q、樟蔭4.5.7.8.10高南8.11.12.13.14で開始、高南はメンバーがかかわっても、これまでとかわらず、早いテンポを激しいディフェンスを続ける。対する樟蔭も、リバウンドや、スリーポイントで応戦し、集中を切らさず戦う。4Qでは両チームともベンチメンバーの出場時間が多くなる中、すべての選手が積極的に挑戦し続け、最後まで引きしまった試合となった。46-84で高南が勝利し、勝った高南は、決勝リーグ3勝とし、大阪選手権大会の優勝を決めた。

記入者：松林・濱口

令和8年7月30日	B③	13:05	大阪市立三国中学校	6	6	6	11		29
金岡公園体育館			大阪薫英女学院中学校	30	10	14	17		71

三国6 7 8 13 15、薫英4 5 6 9 19でスタート。
1Q、三国6のシュートから始まり、すぐさま薫英6がドライブで切り込み得点を返す。その後も薫英は19のインサイドを起点に得点を重ねていく。三国はパッシングで薫英のディフェンスを崩しながら得点を狙うが、なかなかゴールまで繋がらず、6-30で1Q終了。
三国は薫英のオールコートディフェンスに苦しみ、思うようにボールが運べずターンオーバーから失点を重ねた。ディフェンスで主導権を握った薫英であったが、シュート決定率を伸ばしきれず、積極的なディフェンスの反面、ファールがかさむ展開となった。12-40 薫英がリードして2Q終了。
3Qは、薫英がベンチメンバーを中心とした布陣に切り替えたものの試合の流れは大きく変わらず、堅いディフェンスから速い攻撃へとつなげる場面が続き、リードを保ちながら試合を進めた。三国も果敢にゴールへ向かう姿勢を見せたが、薫英のプレッシャーを崩すことができず、得点を伸ばせず18-54で3Q終了。
三国はディフェンス、ルーズボールで粘り強いプレーを続けたが、試合の流れを大きく変えるには至らなかった。薫英が終始主導権を握ったまま試合終了。最後まで攻守で安定した戦いを見せ、29-71で薫英が勝利を収めた。

記入者：中澤・浅井